



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

発行: 2009年2月15日
発行責任者: 鵬友会
特定医療法人社団 事務局長 池島 守

インフルエンザウイルス感染症について ～ 最近の知見 ～

湘南泉病院 内科・感染制御担当 池島 秀明



数年前の高齢者などでのインフルエンザウイルス感染症の流行や、一昨年ごろよりの新型インフルエンザウイルス感染症が問題となってから、様々な報道がなされ皆様の注目度も高くなっております。また先月より特效薬に効果がない（耐性）ものが多く認められるようになり、不安を覚えていらっしゃる方もいらっしゃるのではないかと推察いたします。

そこで今回はインフルエンザウイルス感染症のごく基本的な話をいたします。日本では通常12月から徐々に患者が増え始め、1月から2月にかけて患者数はピークになり3月末には終息します。この時期に、突然の高熱（38～40）、全身倦怠感、食欲不振、筋肉痛、関節痛を主な症状とし、合わせてのどの痛み、鼻汁、咳などの症状が出現したら、罹ったことを強く疑います。この時点から12時間（確実には24時間後）経ってから医療機関を受診すると迅速診断キットにより確実な診断が可能です。インフルエンザウイルス感染症と診断されれば、症状が出現してから48時間以内であれば有効な薬剤（抗インフルエンザ薬）により発熱などの症状を軽減することが可能となります。

たとえ有効な薬剤を使用しても症状が出現してから数日（3～7日）は他の人に感染を広げてしまう危険性があります。そこで重要になってくるのが、様々な感染予防対策です。その中でも基本となるのが、手洗い、うがい、マスクです。感染すると、ウイルスはのどの粘膜（気道粘膜）で増殖するため、咳・くしゃみと一緒に周囲に飛散します。これを自らの粘膜面（鼻、口、眼）に浴びたり、付着してしまった手指で粘膜面を触ってしまうと感染してしまいます。また医療機関や介護施設などで入院中／

入所中の方に感染症が発症してしまったら、発症者の速やかな個室管理が必要になります。個室管理の期間はウイルスの排出期間が3日～7日なので、これを目処に患者さんの症状を看ながら担当の医師と相談することが必要です。

最後に、新型インフルエンザウイルス感染症の話を行います。厚生労働省の対策報告書では、「過去数十年間にヒトが経験したことがないHAまたはNA亜型のウイルスがヒトの間で伝搬して、インフルエンザの流行を起した時、これを新型インフルエンザウイルスと呼ぶ」と定義されています。簡単にいうと、今まで鳥にのみの病気をおこしていたインフルエンザウイルスの、ある種類が形を変えること（変異）によりヒトにも感染することができるようになるということです。そうすると現状では、だれも身体の中でウイルスをやっつけてくれる抗体をもっていないので、爆発的に流行する可能性があるだけでなく、感染すると今のインフルエンザと異なり重症化してしまうと考えられています。鳥インフルエンザウイルスには多くの種類があり、どのウイルスがヒトに感染できるようになるかわからないので、今の技術ではワクチンも造れません（先日報道のあった、インフルエンザに対する万能ワクチンが実用化されれば期待が持てます）。現状では、抗インフルエンザウイルス薬が有効なので治療可能と言われていますが、耐性化が気になるところです。

今後皆様が、今あるもの、新型も含めて気をつけなくてはならないのは、やはり手洗いとうがいに始まる予防法になるのではないかと思います。

横浜ほうゆう病院にて お茶会開きました！！

横浜ほうゆう病院 東1病棟では、新春らしく【お茶会“初釜”】を1月21日に催しました。とっても美味しいお抹茶とお抹茶には欠かせない和菓子もあり、素敵なひと時を過ごす事ができました。初めてのお茶の席という患者様も多く、お茶の先生の抹茶を茶せんで点てる動作を見て、やや緊張気味の患者様もみうけられましたが、お茶を一服した後はみなさん笑顔になっていました。これからもより多くの患者様に参加していただけるよう、様々な催しを行っていきたいと思います。



横浜ほうゆう病院

新中川病院

インフルエンザ予防対策の実践編

病院は集団生活を営むことから、感染症が持ち込まれやすく、また患者は一般の方と比較して疾病に対する抵抗力が弱いいため、拡がりやすさも併せ持っています。

横浜ほうゆう・新中川病院では、日頃からさまざまな対策を行っておりますが、東京都にある認知症高齢者を専門的に診る医療機関で、インフルエンザの集団感染が発生したという報道がありました。当院と類似した医療機関ということもあり、小阪院長が緊急拡大感染委員会を1月20日に招集しました。また新中川病院でも、福田院長が1月21日の診療会議に問題提議をしました。

主に職員対応、面会者対応を具体化した内容で再確認・周知徹底をしました。

- 1)インフルエンザの主な感染経路は飛沫感染、接触感染と推定されていることから、職員は病棟入退出時に速乾性すり込み式手指消毒薬で噴霧手洗い、うがい、マスクの着用。面会者には、面会受付時にマスクを人数分手渡し、着用を指導、病棟入退出時に速乾性すり込み式手指消毒薬で噴霧手洗いの指導
- 2)院内掲示による患者・家族と職員啓発
- 3)病棟の清掃、消毒、湿度のチェック(毎日)
- 4)職員への研修(すべての職員に対して、基本的な対応を習得させる)
- 5)職員・患者の健康管理の徹底と症状の把握

第9回

市民向け医療・福祉講座 開催のお知らせ

テーマ：「心安らかに看取る医療とは」
～療養型病院の在り方と夢～

講師：新中川病院 院長 福田千文

事例報告：看護師長 串田 央子・今成 久美子
訪問看護ステーション 管理者 広瀬 鈴子

日時：平成21年3月7日(土) 14時～
場所：新中川病院 2階リハビリ室

お申し込み・お問い合わせ先

- *お電話の場合(9:00～17:00)日曜・祝日の場合
鵬友会本部 担当：上村 045-810-0331
新中川病院 担当：相原 045-812-6161
- *FAXでのお申し込み

鵬友会本部 045-810-0371



ご参加お待ちしております